



地域循環共生圏構築事業

平成28年度要求額
100百万円（新規）

背景・目的

- 我々のくらしは、自然の恵み（生態系サービス）によって支えられているが、人口減少や高齢化により、人と自然のつながりが希薄になり、これまでのきめ細やかな管理が困難になることにより、生態系が劣化し、全国民が享受する生態系サービスへの影響が懸念。
- 地域の自然資源のストック（自然資本）の持続的な管理手法とそれを支える仕組みを備えた「地域循環共生圏」を構築し、日本の豊かな生物多様性と、その恵みを持続的に次世代に継承していく「環境・生命文明社会」の実現を目指すもの。

事業概要

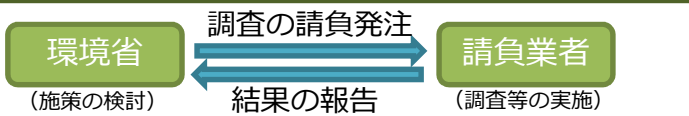
- ①自然の恵みとのつながりを可視化し評価する手法の開発
②資金や労力を確保するための方策検討
③自然の恵みをひきつぐ国民運動
- ボトムアップによって取組を進める新たな仕組みの構築

事業目的・概要等

期待される効果

- 生物多様性とそこから得られる恵みの次世代への継承
- 国土強靱化、健全な水循環の形成

事業スキーム



1. 自然の恵みをひきつぐ地域循環共生圏実現に向けた方策検討

イメージ

(1)自然の恵みの評価手法の開発

(H28-H29)



主要プログラムによる実証調査

①プログラムの効果の定量的評価→②プログラムの検証と評価手法の開発

森林のメタボ解消・健全化プログラム	森里川海の中で遊ぶ子どもの復活プログラム
生態系を活用したしなやかな災害対策	鳥獣等から国土・国民生活を守るプログラム
江戸前などの地域産食材再生のための環境づくり	森里川海からの産業創造プログラム
トキやコウノトリなどが舞う国土づくり	美しい日本の風景再生プログラム
森里川海とつながるライフスタイルへの転換	

効果と地域間のつながりの見える化、生態系ごとのプログラムの組立・活用

(2)資金や労力を確保するための方策検討 (H28-H29)

資金メカニズム、ナショナルトラスト、地域間連携、地域資源を活用した流通システム、人材育成や雇用の環境づくり等の事例の収集・分析

(3)自然の恵みをひきつぐ国民運動 (H28-H31)

戦略的な広報活動、民間企業との連携、シンポジウムの開催等により
(1)(2)の成果の情報発信、国民の気運醸成

2. 自然の恵みをひきつぐボトムアップ型の仕組みの構築 (H30-H31)

全国協議会及び地域ブロック会議の設置